

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 1 区分

【発行日】平成 19 年 2 月 8 日 (2007.2.8)

【公表番号】特表 2003-529516 (P2003-529516A)

【公表日】平成 15 年 10 月 7 日 (2003.10.7)

【出願番号】特願 2001-539789 (P2001-539789)

【国際特許分類】

C 0 1 F 17/00 (2006.01)

【F I】

C 0 1 F 17/00 G

C 0 1 F 17/00 A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 18 年 12 月 7 日 (2006.12.7)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 0

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 0】

錯化剤は特に酸 - アルコール、ポリ酸 - アルコール、又はそれらの塩から選択される。酸 - アルコールの例としてはグリコール酸又は乳酸が挙げられる。ポリ酸 - アルコールの例としてはリンゴ酸及びクエン酸が挙げられる。

錯化剤は更にアミノ脂肪酸、好ましくはアミノポリ脂肪酸、又はそれらの塩が挙げられる。このような錯化剤の例としては、エチレンジアミノテトラ酢酸、ニトリロトリ酢酸、N, N - ジアセトグルタミン酸のナトリウム塩つまり $(\text{NaCOO}^-)\text{CH}_2\text{CH}_2 - \text{CH}(\text{COONa})\text{N}(\text{CH}_2\text{COO}^-\text{Na})_2$ がある。

他の好都合な錯化剤の例としては、ポリアクリル酸及びそれらの塩、例えばポリアクリル酸ナトリウム、より具体的には質量平均分子量が 2 0 0 0 ~ 5 0 0 0 のものが挙げられる。

最後に、同じ分散体中には一種以上の錯化剤が存在できる。